

こもだちのときちゃん

「こもだちのときちゃん」をめぐって

20年 Y・Sさん

わたしは、こもだちのときちゃんと言った本を読みました。この本にでてくるときちゃんは、はずかしがりやでなにをするのもゆっくりな女の子です。もう一人の女の子のときちゃんも、おしゃべりな子です。わたしは、おしゃべりがすきなので、ときちゃんがおしゃべりがにがてなりゆうがわかりません。

本の中で「ぼんおどろいたのは、カメのこうらの話です。ときちゃんが「カメのこうらの中には、思い出がしまっている。」「と言ったことです。わたしは、カメのこうらの中には体が入っていて、思い出は入っていないと思いました。しかしよく考えてみると、わたしはカメのこうらをあげたことがないので、ほんとうに思い出が入っていないとは言えません。ときちゃんのカメの話聞いて、もしかしらほんとうは思い出がしまっているかもしれないと考えてみました。もしカメのこうらをあげてみたら、思い出はどうみえるんでしょうか。わたしは思い出はしゃんみたいに四かぐいかたちをしてみどり色をしていると思います。みどり色のりゆうは、カメのこうらがみどり色だからで、わたしのぼあいは言がすきなので青い色をしていると思います。思い出の色は人によってちがうと思います。思い出のおもさは、かるくて毛が生えていると思います。思い出はたくさんあるので、おもいこつげなくなってしまうからです。大切な思い出をまもるために毛でおおわれています。そんな思い出がカメだけではなく、わたしの中にもしまっていると思います。わたしの中の思い出がどれくらいしまっているかわからないので、おいしゃさんと体の中をしらべてみればわかるかもしれません。

わたしのまわりにはときちゃんみたいな友だちはいませんが、いたら毎日がたのびなると思っています。